

東京農工大学国際センター

事業名	留学生と地域住民の交流を通じた防災プロジェクト			
実施期間	2012年7月－2013年1月			
場 所	東京農工大学			
参加者	外国人留学生	地域住民・企業等	その他	合計
	123 名	24 名	14 名	161 名

<実施内容>

- 1) 消防署による防災講演
- 2) 「やさしい日本語」の考案者による講演
- 3) 立川防災館での体験学習
- 4) 「留学生と地域のための安全ノート」の作成

防災講演会
(消防署への通報の実習)



「やさしい日本語」講演会

防災講演会
(消火の実習)



立川防災館訪問

東京農工大学国際センターが行った「留学生と地域住民の交流を通じた防災プロジェクト」では、留学生と大学の近くに住んでいる日本人がいっしょに防災(地震がきたときに困らないようにするための準備)について勉強しました。たとえば、留学生と日本人が、地震のときに何をすればいいかを消防署の人に聞いたり、立川防災館というところで、家が揺れる体験をしたりしました。また、地震のときに、日本人と留学生がうまくコミュニケーションを取れるようにするために、日本語初級レベルの留学生にもわかりやすい「やさしい日本語」の使い方を紹介しました。それから、地震のときに困らないようにするために準備することや、もし地震がきたらしなければいけないことを説明した本も作りました。この本は、やさしい日本語と英語で書かれているので、日本語が少ししかわからない留学生も内容を理解することができます。日本は地震が多い国なので、地震がきたときのための準備や、留学生と日本人の協力がとてもたいせつです。留学生と大学の近くに住んでいる日本人が私たちのプロジェクトで行ったような活動にいっしょに参加して、おたがいをよく知ることができれば、ほんとうに地震がきたときに助け合うことができます。東京農工大学は、これからもこうした活動を続けていきたいと思っています。

<参加者からのコメント>

周さん(仮名)(中国)/Zhou

外国人として言葉が通じないのはどんなにくるしいことかよくわかります。「やさしい日本語」は災害の時だけでなく、普通の生活にも大きな役割があると思います。(「やさしい日本語」の講演会に参加して)

エリスさん(仮名)(インドネシア)/Elis

It was nice to try this kind of simulations so now we can understand the potential and danger of earthquake. (立川防災館に訪問して)